



自然の中や私たちの身のまわりには、いろいろな「かたち」がくれています。
 自然の中で物が形作られるのには「わけ」があります。
 この企画展で、いろいろな形のふしぎに触れてみてください。
 そして「ふしぎだな」と思ったら、形ができるわけ、しくみを考えてみましょう。
 展示には、考えるヒントがたくさんかかれています。

しぜん かたち

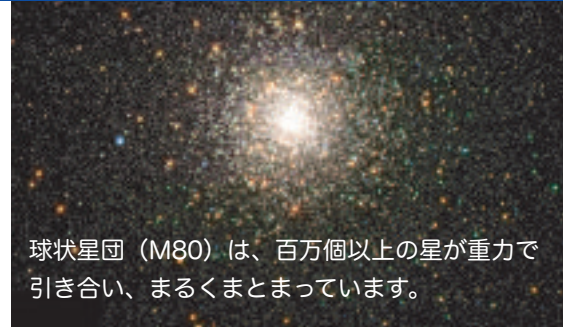
ガーベラ（キク科）
 キク科の花は、小さな花が集まってできています。
 真ん中に次々と新しい花ができ、前にできた部分をまわりに押し
 のけていくと「らせん」があらわれます。
 同じようならせんは、まつぼっくりなどにもみられます。



オウムガイは体の成長に合わせて殻
 を大きくしていきますが、そこには
 数学的な美しさがあります。
 殻のらせんは、中心から引いた直線
 と、いつも同じ角度で交わります。



オウムガイの殻（切断面）



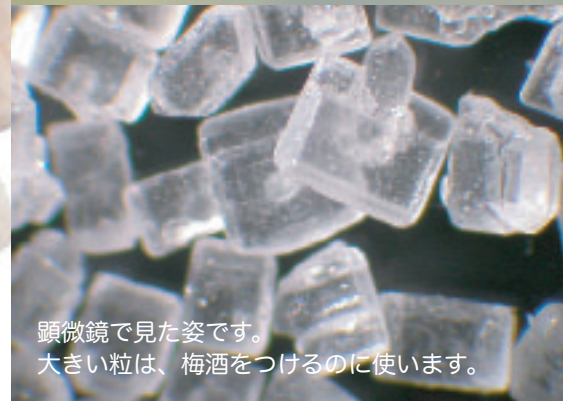
球状星団（M80）は、百万個以上の星が重力で
 引き合い、まるくまとまっています。

鳥の卵が球形でないのにも
 わけがあります。



ニワトリの卵
 （白色レグホン）

何の卵でしょう？



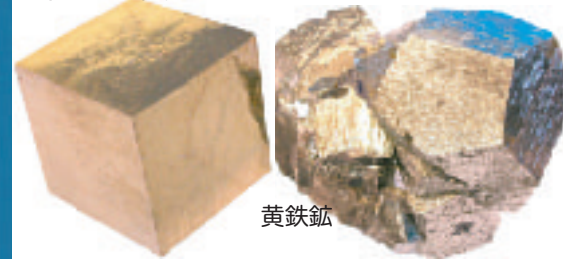
顕微鏡で見た姿です。
 大きい粒は、梅酒をつくるのに使います。



ルビーの原石 アクアマリンの原石

鉱物の結晶の内部では、原子が規則正しく
 並んでいます。結晶ができる時にまわ
 りの影響を受けなければ、原子の並び
 を反映した形になります。

同じ鉱物なのに、黄鉄鉱のように全く
 違った形の結晶になることもあります。
 なぜでしょう？



黄鉄鉱